



Title: 図書館も春本番

市立図書館が指定管理となって3年目の春。このコラムも2年目に入りました。時々「読んでるよ」と声を掛けてくれる利用者の方もいて、うれしいような気恥しいような…。今年度もいろいろな本の話や図書館の楽しさ、奥深さを、皆さんとわかちあいたいと思います。今後ともどうかお付き合いのほどを。

#### ❖おはなし会がリニューアル

これまで毎月2回開催されてきた中央図書館の定例読みきかせ会をリニューアルします。と言いながらナンですが、4月からは月1回に戻ります。

リニューアルするのは、読みきかせグループ「おはなしの森」のおはなし会。新しいメンバーも加わり元気なグループの皆さんは、単なる読みきかせからの脱皮を図ります。来館された方（基本乳幼児と保護者が対象ですがどなたでも歓迎します）に読みきかせをするのは変わりませんが、質問に応じて月齢に応じた絵本の選び方や家庭での読みきかせ方へのアドバイスを行うほか、要望に応じて手あそびなどの遊びも一緒に楽しめればと思います。

読みきかせ会の名称も変わります。題して「おひざにだっこのおはなし会」。毎月第3金曜日に開催予定です。4月は17日（金）の10時半から11時まで。中央図書館の児童コーナーでお待ちしています。お金は一切かかりません、予約も不要です。どうぞお気軽においでください。

#### ❖ふるさとは歌われているか

『ふるさとは歌われているか』（秋田魁新報社政治経済部編）という本があります。昭和55年の魁新報の長期連載をまとめ、56年に同社から発行されたものです。県内の地名を冠した音頭や小唄、市町村民歌から県民歌まで、地域を歌った歌（コミュニティ・ソング）を切り口に、農業政策や産業構造の変化に翻弄される秋田を浮き彫りにした貴重な資料となっています。現時点から眺める35年前の秋田の姿は、まち・むらのかたちや県人の心性などの変遷を重層的に見ることができて、たいへん興味深いものです。

55年の世相がどういうものだったか振り返ると、任天堂がゲーム&ウォッチを発売、西側諸国不参加のモスクワ・オリンピック、ルービックキューブ、松田聖子がデビューし山口百恵が引退、長嶋監督解任と王選手引退、レーガン大統領就任、ジョン・レノン射殺事件、MANZAIブーム、ウォークマン大流行……。音楽では、もんだ&ブラザーズ「ダンシング・オールナイト」、クリスタルキング「大都会」、久保田早紀「異邦人」、海援隊「贈る言葉」、オフコース「さよなら」、谷村新司「昴」、五輪真弓「恋人よ」、沢田研二「TOKIO」、八代亜紀「雨の慕情」、松村和子「帰ってこいよ」、ロス・インディオス&シルビア「別れても好きな人」……ダメだ、キリがない。でももうひとつだけ。5月13日（水）に大館市民文化会館で公演する八神純子の「パープルタウン」もこの年の大ヒット曲でした（チケット好評発売中です！@文化会館）。

昭和54年の施政方針演説で大平正芳首相が「文化の時代」の到来を唱え、それはま

た「地方の時代」でもあるということで、地域の文化を見直す動きが各地で活発化したのも 55 年という年でした。この動きが魁新報の連載につながり、昭和 61 年の国民文化祭の開始にもつながっていくわけです。

『ふるさとは歌われているか』で再三言及されていることに、歌だけでなく地域の変化の節目が自治体の合併と学校の統廃合だったということがあります。平成の大合併を経た現在も、同じ構図が見られます。コミュニティ再生という課題は今もなお、現在進行形の問題なのだと改めて思わされます。未来を見通す難しさはいつの時代も同じでしょうが、地域の来し方を知ることの大切さは変わりません。

図書館は、地域に関する問題意識をもった市民の利活用のために、参考となる資料を意識して収集しています。これらの「郷土資料」は永く保存する必要もあり、閉架書庫に保存しているものも少なからずあります。どのような資料があるかは、インターネットからアクセスできる市立図書館の O P A C (オンライン蔵書目録) で検索することができます。検索に慣れていない方や機械が苦手な方は図書館員に訊ねた方が速いかもしれません。遠慮なくお尋ねください。

『ふるさとは歌われているか』は中央図書館と田代図書館に所蔵があります。中央は保存のため禁帯出(館外貸出はできないが館内で見えることはできる)ですが、田代は館外貸出もできます。(陽)